

協会の飼料増産に係る取組み

1. 協会が取組む普及啓発等事業	1
2. 新品種の紹介(ペレニアルライグラス・飼料用イネ)	3
3. 牧草飼料作物・飼料用稲 現地実証展示ほ設置の手引き	5
4. 公的育成優良品種パンフレット	9
5. 令和5年播種用飼料用稲種子の供給について	13
6. コントラクター等研修計画	14
7. 放牧畜産基準認証制度のご紹介	15
8. 飼料稲給与畜産物認証制度のご紹介	19
9. 公共牧場等の利用にかかるマッチングの実施	21
10. 放牧による持続的畜産普及拡大推進事業(新規)	22
11. 飼料用大豆・高栄養 TMR 生産調製実証事業(新規)	24
12. 協会主催の飼料増産に関する研修会等について	25
13. 令和3年度事業主要成果品一覧	26

(別冊)

- ・ 令和5年播種用 飼料用イネの栽培と品種特性

令和4年12月21日

一般社団法人 日本草地畜産種子協会

1. 令和4年度に(一社)日本草地畜産種子協会が取り組む普及啓発等事業

(1) 協会が都道府県、都道府県関係団体、各種協議会等と共催で開催する普及啓発等事業

名 称	内 容	主な参加・受講対象者	協会が負担する主な経費	備 考	区分
飼料増産に係るブロック会議	ブロック段階の飼料増産推進会議及び現地検討会等の開催	都道府県、普及機関、行動会議構成員、試験研究機関等	会場借料、講師派遣経費、資料作成費等	農政局等と共催	A
高能力新品種の展示ほ等を活用した現地検討会	飼料作物の展示ほ場等を活用した、品種の特性や栽培・利用等についての研修会等の階差	普及センター、市町村、農協、農家、コントラクター等	会場借料、講師派遣経費、バス等の借り上げ費、資料作成費等	都道府県、農協等と共催 高能力新品種展示ほ設置協力者に種子代等を助成	A
飼料生産・放牧指導者育成研修会	地方公共団体や農協職員等の指導者を対象にした飼料作物・飼料用稲の生産利用や放牧等に関する研修会等の開催	地方公共団体職員、農協職員、公共牧場職員等	会場借料、講師派遣経費、バス等の借り上げ費、資料作成費等	農政局、都道府県等と共催	A B

(2) 関係団体等が開催する研修会等へ協会が専門家を派遣する事業

名 称	内 容	主な対象者	備 考	区分
放牧指導者等による地域指導	放牧アドバイザー等専門家による放牧技術等の現地指導の実施並びに関係団体等が開催する技術研修会等への専門家の派遣。	農家、普及センター、農協、市町村職員等	放牧アドバイザー等の派遣については、本会ホームページに申請書を掲載	B

(3) 協会が関係団体等と共催で技術研修会等を開催する事業

名 称	内 容	主な参加・受講対象者	協会が負担する主な経費	備 考	区分
飼料作物栽培技術研修会等の開催	飼料作物・飼料用稲の生産利用や放牧等に関する技術普及のための研修会等の開催	農家、普及センター、農協、市町村職員等	会場借料、講師派遣経費、バス等の借り上げ費、資料作成費等	関係団体等と共催	A B

注：A(草地生産性向上対策のうち飼料作物優良品種利用・安定生産対策)、B(放牧による持続的畜産普及拡大推進事業)

(裏面に続く)

(4) 協会が主催する研修会・検討会(関係団体や地元団体との共催も可能)

(開催については、詳細が決定次第ホームページ等でご案内します。)

名 称	内 容	主な参加・受講対象者	備 考	区分
飼料増産等シンポジウム	飼料増産、放牧、飼料用稲、国産濃厚飼料(子実用とうもろこし等)等に関する全国シンポジウム	地方公共団体職員、農協職員、試験研究機関職員、関係団体等	関係団体、地元団体との共催も可能	A B
放牧技術研修会	放牧技術の指導者及び放牧への転換を志向する畜産農家を対象に、放牧に関する専門的な技術と知見を有する放牧指導者による座学と実技研修(電気牧柵の設置、GPSを活用した牧柵の設置を含む)	普及センター職員、農協職員、市町村職員、酪農家等	放牧に係る座学と現地研修	B
コントラクター等情報連絡会議	コントラクターやTMRセンターのレベルアップを図るための専門家による講演と、事例発表を通じた情報交換等	コントラクター、TMRセンター、行政関係者、農協職員、畜産団体職員等	情報交換と現地視察	A
飼料生産組織従事者技術基本研修会	コントラクター等のオペレーターを対象とした、飼料作物の生産利用、大型農業機械の保守点検整備、作業の安全等に関する座学による研修と実技研修	コントラクター及びTMRセンターのオペレーター職員	(独)家畜改良センター本所(福島県)で実施	A
飼料生産組織従事者技術実地研修会	コントラクター等のオペレーターを対象とした、機械等の実技研修	コントラクター及びTMRセンターのオペレーター職員	(独)家畜改良センター牧場で実施、地域コントラ協議会との共催も可能	A
持続可能な畜産物生産に関する全国セミナー	持続可能な畜産物の普及を図るためのセミナー	行政・普及指導機関、試験研究機関、農協、農家、一般消費者等	事業関係団体、地元団体との共催も可	A
全国公共牧場運営改善研修会	公共牧場の運営改善に必要な知識及び技術の習得や公共牧場の新たな活用方法に関する研修	公共牧場管理者、地方公共団体職員、農協職員等	東京都で開催を予定	A
草地難防除雑草駆除技術研修会	草地難防除雑草駆除対策の実施による効果を、周辺地域に普及させる現地研修会	畜産農家、農協職員、地方公共団体職員等	事業関係団体、地元団体との共催も可	C

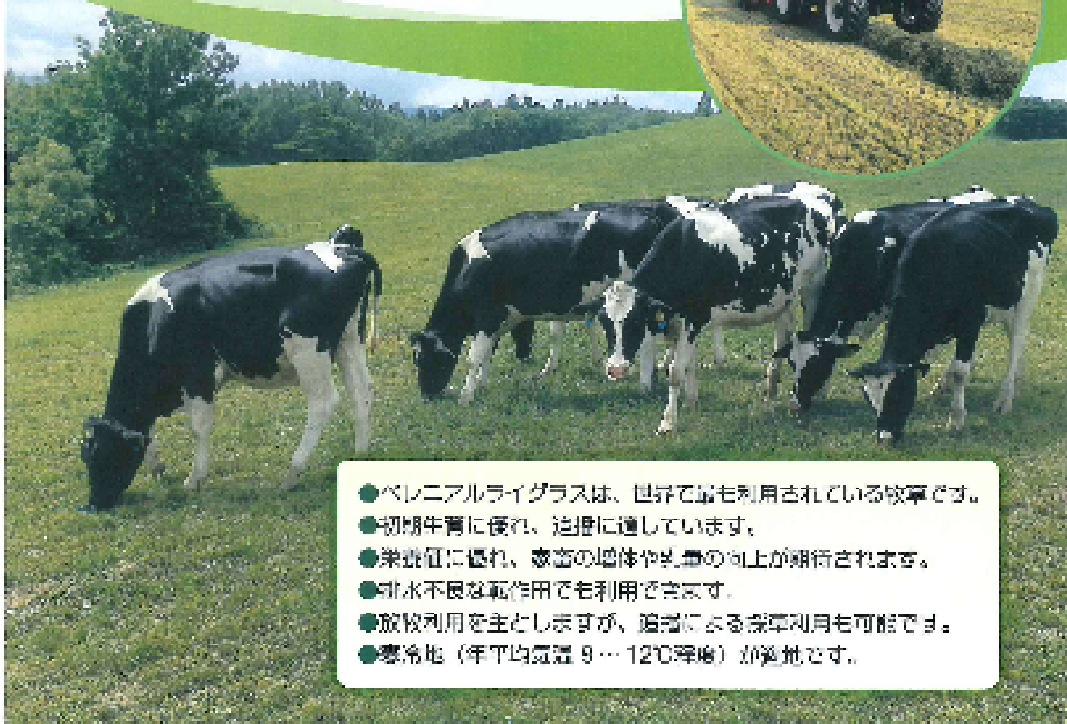
注: A(草地生産性向上対策のうち飼料作物優良品種利用・安定生産対策)、B(放牧による持続的畜産普及拡大推進事業)、C(草地難防除雑草駆除技術実証事業)

牛が喜んで食べる高栄養牧草

ペレニアルライグラス

夏ごしペレ

栽培マニュアル 寒冷地暫定版



- ペレニアルライグラスは、世界でもっとも利用されている牧草です。
- 初期生育に優れ、適性に適しています。
- 栄養価に優れ、畜産の増産や乳量の向上が期待されます。
- 排水不良な圃場でも利用できます。
- 放牧利用を主としますが、追刈による採草利用も可能です。
- 寒冷地(年平均気温9〜12℃程度)が栽培地です。

農研機構東北農業研究センター

新品種「夏ごしペレ」とは

新品種「夏ごしペレ」は、本種における栽培で最も問題となる結露性を改良しました。結露性の改良により、収量性を既存品種より優れます。

結露性に優れます

本種では夏の高湿をペレニアルライグラスが克服することが、ペレニアルライグラス普及の制約要因になっていました。その制約要因を克服した品種が「夏ごしペレ」です。

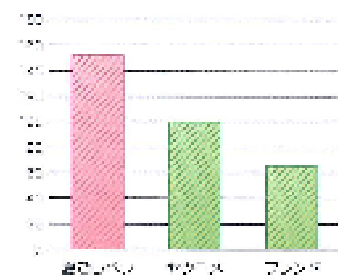


図1 試草物の収量(2014年4月採平均)
(ヤツユメ山、栃木県那須野国府町)



図2 「夏ごしペレ」試草物の生育
(2013年9月6日 栃木県那須野国府町)

収量性に優れます

既存のペレニアルライグラス品種と比べて東北地域や山梨県で同等以上の収量性があります。

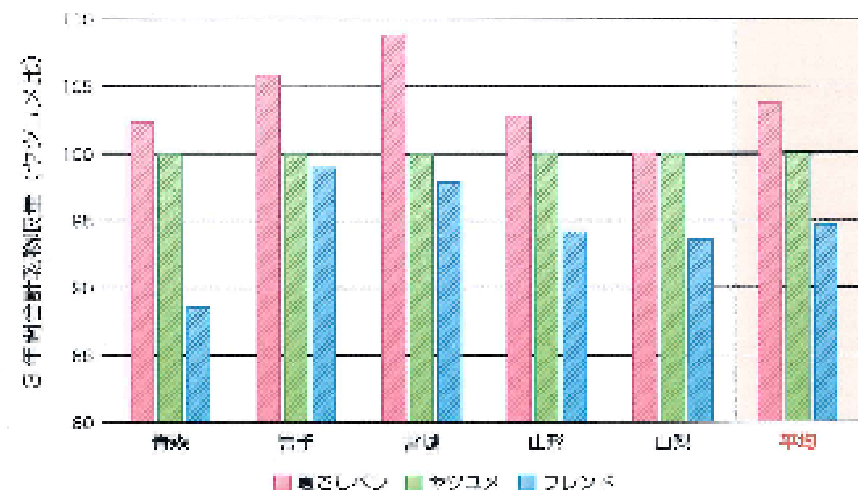


図3 放牧条件を設定した多圃別の条件での3年間の合計収量(ヤツユメ的)

早生「つきはやか」、中生「つきあやか」

- 早生化と耐病性の強化により栽培適地が拡大 -

特性のポイント

1. 出穂期

「つきはやか」は「夢あおば」(従来品種)並の早生
 「つきあやか」は「たちあやか」並かやや早い中生
 (感光性が弱く移植時期の変動により出穂期が前後します。)

2. 籾割合が小さい

「つきはやか」は20~25%程度。(「夢あおば」の半分)
 「つきあやか」は5%程度。(「たちあやか」並)

3. 縞葉枯病に強い。

「たちあやか」の欠点である縞葉枯耐病性を改良しました。



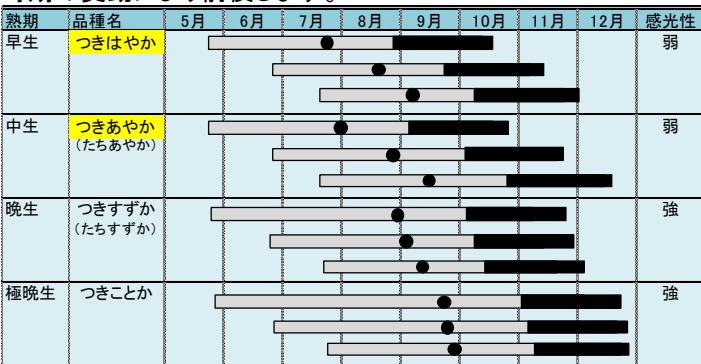
つきはやか つきあやか

・高糖分で良好な発酵が期待できます。
 ・籾割合が低く、消化性にすぐれる茎葉が多収です。

【育成者権情報】
 2品種とも登録品種。
 2品種とも海外持出禁止(農水省HP参照)

■ 出穂特性-育成地(広島県福山市)でのイメージ

感光性が弱い「つきはやか」「つきあやか」の出穂期は、移植時期の変動により前後します。

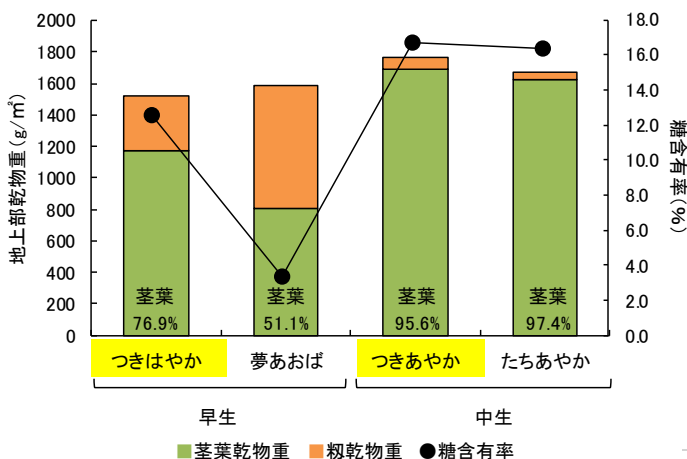


● 出穂期, ■ 収穫可能時期

■ 生育特性①-育成地(広島県福山市)-

系統名	出穂期(月日)	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(/m ²)
つきはやか	8.04	101	19.7	225
夢あおば	8.06	88	23.2	300
つきあやか	8.14	113	12.8	336
たちあやか	8.16	113	14.0	326

※育成地(広島県福山市)、2016~2019年の平均値。6月上旬移植、窒素施肥量:15kg/10a



■ 生育特性②-東北地域(秋田県大仙市)-

系統名	出穂期(月日)	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(/m ²)	地上部乾物重(g/m ²)	穂重割合(%)
つきはやか	8.11	110	16	305	1735	13.1
夢あおば	8.03	83	22	322	1475	50.2
たちあやか	8.25	118	12	389	2000	0.6

※東北地域(秋田県大仙市)、2017~2018年の平均値。5月中旬移植、窒素施肥量:15kg/10a

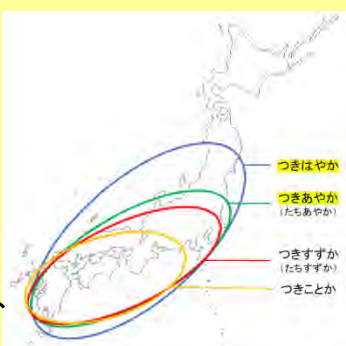
■ 病害虫抵抗性

品種名	耐倒伏性	いもち(葉穂)	縞葉枯病	白葉枯病	穂発芽	除草剤
つきはやか	極強	不明	抵抗性	やや弱	やや易	非感受性
つきあやか	極強	不明	抵抗性	中	中	非感受性

栽培適地

「つきはやか」では東北中部以南
 「つきあやか」では東南北部・北関東以南

「つきはやか」は東北地域への普及が、「つきあやか」は中生を要望する北関東地域などの縞葉枯病多発地帯での普及が見込まれます。関東以西においてこれら2品種と晩生の「つきすずか」などと栽培を組み合わせることにより、移植や収穫作業の分散が可能です。



栽培上の注意点

1. いもち防除は食用水稻品種と同様に徹底する。
2. 十分な収量や良好なサイレージの品質を確保するため出穂30~40日以降に収穫する。

3. 牧草飼料作物・飼料用稲 現地実証展示ほ設置の手引き

令和4年度は牧草飼料作物及び飼料用稲の現地実証展示ほを以下の通り実施する予定です。

1. 展示ほに用いる草種・品種は、別添の令和4年度播種用「展示ほ対象優良品種と特性等の一覧」を参考に、当該地域に適合する草種・品種を選択願います。
なお、種子数量により希望者多数の場合は先着を優先とします。
2. 展示ほ栽培面積は 永年牧草 1ヘクタール、飼料作物（単年生作物）及び飼料用稲は 50アールを上限とします。
3. 当協会が負担する金額は「種子代金」（種子送料も含む）と「展示ほ看板製作資材費」のみとします。
4. 展示ほの栽培者をご紹介いただける方は、下記お問い合わせ先にご連絡願います（春播き：5月末まで、秋播き：9月末まで）。当協会から「栽培者紹介」表（別紙様式第1号）のエクセルファイルをメールにてお送りいたしますので、必要事項を記入のうえ返送願います。
5. 展示ほ設置依頼書
→提出いただきました「栽培者紹介」に基づき、別紙により、当協会で設置者名を記入の上、紹介機関宛に送付いたします。
6. 展示ほ設置承諾書（別紙様式第2号）
→当協会で作成し、設置者名を記入の上、紹介機関宛に送付いたします。
承諾者から押印をいただいた上で、紹介機関より当協会に返送願います。
7. 展示ほ調査報告書（別紙様式第3号）
→報告書は紹介機関を通じて提出していただきます。
（当協会から種子を供給し、報告書未提出の場合は、種子代金を請求いたします。）
8. 請求書（別紙様式第4号）
→紹介機関を通じて提出していただきます。
（当協会から種子を供給した場合は、請求は看板製作資材費のみです。）
（栽培地で種子を購入した場合は、種子購入代金及び看板製作資材費のみです。）
請求時には製作した看板写真及び展示ほに設置した看板写真もしくは調査報告書（別紙様式第3号）の提出が必要です。
9. 展示ほ看板シート
当協会から紹介機関宛に送付いたします。
 - ・看板シートサイズ 高さ 約42cm × 幅 約60cm
 - ・のり付きですがコンパネ等に貼り付ける場合、画鋲で固定して使用してください。

以上

お問い合わせ：

一般社団法人日本草地畜産種子協会

電話：03-3251-6501 FAX：03-3251-6507 種子部 元村、伊澤

E-mail：motomura@souti-fsa.or.jp

【別添】

○飼料作物優良品種利用・安定生産対策 高能力新品種の普及推進 (都府県用)

2022年度 播種用 「展示ほ対象 優良品種 と特性等の一覧」

一般社団法人 日本草地畜産種子協会

2022年4月

草種	品種名・系統名	早晩性	主な特性	地域	販売状況
イタリアン ライグラス ＊播種は天候と作業の都合から遅れがちになっています。 適期より早めの播種ではいもち病抵抗性品種の選択が必須です。	「Kyushu 1」 キュウシュウワン (2倍体) 出願品種	極早生	極早生種でいもち病抵抗性が強化された新品種です。 西南暖地の9月～10月上旬の播種で発症が懸念されるいもち病に対し抵抗性があります。西南暖地では3月中に出穂期となり乾物率、乾物収量も高くなります。 また、根量は少なく、早期水稻の作付け作業に移行しやすい品種です。 早播き飼料用トウモロコシの栽培体系の前作にも適しています	南東北～沖縄	販売中
	「はやまき18」 いもち病抵抗性 (2倍体) 登録品種	早生	早生品種初のいもち病抵抗性品種です。いもち病は九州・四国等の温暖な地域の早播きで発症するイタリアンライグラスの重要病害です。(茨城県での発症も確認されている。) 秋季の温暖化と秋の降雨で発症のリスクは増加傾向にあり、発症が多い場合は種子の播き直しになります。 特に晩夏播き年内収穫のエンバク混ぜ播きでは、下葉の繁茂などからいもち病の発症リスクが高まります。いもち病抵抗性品種の利用は必須です。 今後、特に温暖な地域では安定生産に欠くことができない品種です。 「はやまき18」の耐倒伏性や収量性は、他の早生種の改良品種と同レベルです。 ＊育成場所は栃木県で、栽培地域は東南北部～九州・沖縄までの広域に適します。		販売中
	「きららワセ」 (4倍体) 登録品種	早生のやや晩	4倍体品種の多くは晩生種で、草姿は一般的に匍匐型が多い中で、「きららワセ」の草姿は立型で、出穂は早生種のやや晩と早く、初期生育は4倍体の特性を示し旺盛で低温伸長性にも優れ、播種遅れにも対応できる品種です。 葉幅が広く、葉はやや長く、茎径はやや大柄な草姿で多収です。耐倒伏性は他の4倍体品種と比べて「強」で、他の2倍体の改良品種と比べても「やや強」です。 いもち病抵抗性は「中」で、冠さび病抵抗性は「強」です。		販売中

注意 いずれの品種も 海外持出禁止 (公示 (農水省 HP) 参照)

草種	品種名・系統名	早晚性	主な特性	地域	販売状況
ペレニアル ライグラス	「夏ごしペレ」 (4倍体) 出願品種	晩生	夏ごしペレの年間収量は、既存品種ヤツユメよりも優れており、特に越夏性を向上させたことで越夏後の収量はヤツユメ比で150%強(3ヵ年4試験平均; 栃木県那須塩原市)を示しました。 放牧・採草兼用品種です。 ペレニアルライグラスの特長である、定着の早さ、再生草勢が優れることにより、荒廃草地への追播などで植生改善につながります。栄養価も高く、嗜好性も向上することから、夏場の摂食量減退による乳量低下といった課題にも対応します。	東北～ 九州の 高冷地	R4年 より 新発売
オーチャード グラス	「まきばゆうか」 出願品種 ※試作用種子量に制限がありますので、アキミドリⅡの栽培経験のある栽培者を優先に候補とさせて頂きます。	極早生	まきばゆうかの年間収量は、既存品種アキミドリⅡよりも関東以西では優れており、東北地方ではアキミドリⅡ並です。越夏性が向上しており、特に温暖地で良好な越夏性を示します。葉腐病、小さび病、黄さび病への抵抗性が改良されています。草丈はアキミドリⅡと同程度かやや高く、2番草以降は明らかに高くなります。	東北～ 九州の 中標高地	R7年以 降の販売 予定
	「きよは」 出願品種 ※試作用種子量に制限がありますので、まきばたろうの栽培経験のある栽培者を優先に候補とさせて頂きます。	中生	きよはの年間収量は、既存品種まきばたろうよりも優れています(東北～関東6場所平均)。越夏性に関連する葉腐病のほか、小さび病、黄さび病すじ葉枯病、うどんこ病といった各種病害への抵抗性が改良されています。低温伸長性が改良されたことから、早春および晩秋の草勢が優れます。耐倒伏性も改良されており、まきばたろうよりやや優れます。 採草および放牧に利用可能です。	東北～ 九州の 中標高地	R7年以 降の販売 予定

注意 いずれの品種も 海外持出禁止 (公示 (農水省 HP) 参照)

草種	品種名・系統名	早晩性	主な特性	地域	販売年次
飼料用稲 ※ 飼料用稲は 実施件数に制限 があります。 (お問い合わせ 願います。)	「つきはやか」 出願品種	早生	極短穂茎葉型 稲 WCS 用専用品種です。 東北では「夢あおば」より 1 週間早い早生になります。暖地でも「たちあやか」より 12 日程早くなります。東北中南部以南～九州向きで、特にこれまで WCS 専用品種の栽培が困難であった東北での普及が期待されています。縞葉枯病抵抗性であり、耐倒伏性は「たちすすか」並みの極強です。糖含量が「たちすすか」並みに高く、発酵品質及び嗜好性ともに良くなります。	東北中南部以南 ～九州	R4 年 より 新発売
	「つきあやか」 出願品種	中生	極短穂茎葉型 稲 WCS 用専用品種です。 「たちあやか」より 2 日程早い中生で、東北中南部～九州向き。「たちあやか」の弱点であった縞葉枯病への抵抗性を備えました。耐倒伏性は「たちすすか」並みの極強です。糖含量が「たちすすか」並みに高く、発酵品質及び嗜好性ともに良くなります。	東北中南部～九州	R4 年 より 新発売
	「つきすすか」 登録品種	晩生	極短穂茎葉型 稲 WCS 用専用品種です。 縞葉枯病に対し抵抗性を持ちます。穂長は短く、籾重も少なく、稈長は高いが重心が低いことから耐倒伏性に優れます。糖分含量が高いことから、サイレージの発酵品質及び嗜好性の向上が期待できます。消化されやすい茎葉の割合が高く、消化されにくい籾の割合が低くなります。WCS 生産では、早植え、多肥栽培が有効とされています。	関東以西 ～九州	販売中
	「つきことか」 出願品種	極晩生	極短穂茎葉型 稲 WCS 用専用品種です。 穂長は極短で、籾重は 2%程度で地上部はほぼ茎葉となります。収量は「たちすすか」比で 2 割ほど多収となります。晩植（6 月下旬移植）でも籾重は増えないことから、麦後などの晩植栽培でも茎葉多収となります。縞葉枯病に対し抵抗性を持ちます。糖含量が高いことから、発酵品質及び嗜好性ともに良くなります。極長稈となりますので、栽培時は疎植にするなど倒伏のリスクを避けるよう努めて下さい。	東海以西 ～九州	販売中

注意 いずれの品種も 海外持出禁止（公示（農水省 HP）参照）

イタリアンライグラス

きららワセ

登録品種
海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

早生～中生、低温伸張性に優れた4倍体品種

各地の現地実規模栽培で多収と評価の高い品種

- ☆葉幅が広く、葉は大型で多収。2倍体にはない魅力。
- ☆初期生育旺盛で低温伸張性に優れ、播種遅れにも最適。
- ☆耐病性に優れ、9月下旬～10月上旬にエンバクと混播する事例も増えています。年内はエンバクを主体に収穫、土砂混入も少なく、翌春は2～3回の収穫。
- ☆既存の4倍体晩生種と草型が異なり、立性で耐倒伏性も改善された品種です。

育成：山口県農林総合技術センター



イタリアンライグラス



↑ 右:積雪害に強い「ナガヒヒカリ」

ナガヒヒカリ

中生4倍体品種

積雪地帯で長年の信頼で栽培されています。

お知らせ：今年の秋播きから種子を再供給いたします。

- ・多雪地域や北東北低標高地の寒冷地に向く。畑地や水田で安定した収量確保が可能な唯一の品種です。
- ・連続積雪120日までの積雪地域に向く。

育成：農研機構（北陸農業研究センター）

イタリアンライグラス ワセユタカ

初期生育良好で長年の信頼

- ・関東以西～九州地域の通常栽培向けベストセラー早生品種。
- ・早春の低温期から生育良く、莖数多く、安定多収な品種。

育成：山口県農林総合技術センター

イタリアンライグラス ワセアオバ

降雪地帯を中心に長年の信頼

- ・南東北～温暖地の耐寒・耐雪性やや良好なベストセラー。
- ・やや直立型で、葉幅がやや広く、安定した早生品種。

育成：農研機構

(北陸農業研究センター)

イタリアンライグラス はたあおば

- ・東北部～中国四国までの積雪の少ない地域。耐倒伏性に優れる。
- ・乾物収量高く、安定した早生品種。

育成：茨城県畜産センター

登録品種 海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

イタリアンライグラス ニオウダチ

草丈やや低い、耐倒伏性

- ・関東～四国、九州地域の通常栽培に向く早生品種。
- ・莖はやや太めで強く、耐倒伏性に優れる。

育成：農研機構 畜産研究部門

イタリアンライグラス ヒタチヒカリ

耐倒伏性の4倍体

- ・北関東～九州地域の通常栽培に向く中晩生品種。
- ・耐倒伏性に優れ、再生、耐病性も良好で、安定多収な品種。

育成：茨城県畜産センター

イタリアンライグラス アキアオバ3

長期利用が可能

- ・北関東～九州地域に適する。
- ・4倍体で越冬性に優れる晩生品種で、極長期利用が可能。

育成：茨城県畜産センター

登録品種 海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

○ イタリアンライグラスの播種量 適期播種時：10a当たり 2～4kg。早播き・遅播き時：10a当たり3～5kg。

○ イタリアンライグラスとエンバクの混播播種量 10a当たり イタリアンライグラス：2～3kg、エンバク：4～5kg。

一般社団法人 日本草地畜産種子協会 03-3251-6501
東京都千代田区神田紺屋町8 NCO神田紺屋町ビル飼料作物研究所（那須塩原市）0287-37-6755
九州試験地（熊本県合志市）096-348-34452022年
晩夏・秋播用

イタリアンライグラス で粗飼料不足の解消を!

国や県などで育成した優良品種の紹介

イタリアンライグラス

はやまき18

登録品種
海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

早生種で唯一のいもち病抵抗性品種



既存の早生種では困難であった早播きが可能になります。

- ☆九州など温暖地で9月中旬～10月上旬に極早生エンバクと混播、年内はエンバク主体に収穫し、翌春「はやまき18」を2回収穫する。いもち病抵抗性を活用する省力栽培です。
- ☆収量性と耐倒伏性は良好、他の早生優良品種と同様です。
- ☆地域適応性は東南北部から九州・沖縄までの広域に適する。

育成：日本草地畜産種子協会 飼料作物研究所（熊本県那須塩原市）

イタリアンライグラス

Kyushu 1

品種登録出願中(出願公表中)
海外持出禁止(公示(農水省HP)参照)

極早生種のいもち病抵抗性品種



いもち病抵抗性を上手に活用してください。

- ☆南九州平坦地9月中旬播種で年内に出穂する。極早生エンバクと混播で年内に乾物収量を高めて収穫ができる。翌春1～2回の収穫に向く。
- ☆ソメイヨシノ開花頃の3月下旬に出穂します。根量少なく早期水稻の作業もしやすい品種です。
- ☆早播きトウモロコシの前作栽培に適します。

育成：農研機構九州沖縄農業研究センター（熊本県）

○イタリアンライグラスのいもち病



イタリアンライグラスいもち病

【いもち病の発病は温暖化で拡大が懸念されます。】

いもち病の感染適温は25℃前後です。

関東以西の9月～10月上旬に発病します。

イタリアンライグラスの早播き、エンバクと混播の早播きではいもち病の発症リスクが高まります。抵抗性品種を利用しましょう。

注意：「ガルフ」（旧名：普通種）はいもち病に極弱の品種です。

・熊本県合志市（畑地）・播種：2016年9月16日・写真：2016年11月4日



はやまき18